

2018年3月期 第2四半期 決算説明会

2017年11月22日



PUNCH INDUSTRY

パンチ工業株式会社

(証券コード: 6165 東証第一部)

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

1. 2018年3月期 第2四半期 決算概況
2. 2018年3月期 通期業績予想
3. 中期経営計画
「バリュークリエーション2020」の進捗



1. 2018年3月期 第2四半期 決算概況

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

□2018年3月期 第2四半期の決算概況です。

2018年3月期 第2四半期 決算ハイライト

第2四半期連結累計期間において、上場来最高の売上・営業利益を計上し、通期業績予想を上方修正。

売上	連結	連結売上高は、前年同期比110.9%、19億円増の198億円。
	日本	前年同期比110.0%の84億円。引き続き、自動車関連が伸長。電子部品・半導体関連、食品・飲料関連も売上を底上げする形で好調に推移。
	中国	前年同期比111.6%の95億円。引き続き、自動車関連と電子部品・半導体関連が堅調。新たに取組んでいる高付加価値の戦略製品が伸長。
	東南アジア その他	前年同期比111.9%の18億円。 欧州、シンガポール、インドネシア、フィリピンが好調に推移。
利益		営業利益は前年同期比167.0%の14.0億円。リバースエンジニアリング事業拡大に伴う設備投資や研究開発投資等による販管費の増加はあったものの、売上増加による利益増に加えて、工場の稼働アップによる原価率の良化により、大幅増益。経常利益は前年同期比176.6%の13.9億円。親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比167.6%の9.2億円。
ネット資金		親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等により、期首から621百万円増加。

□第2四半期連結累計期間において、グループ全体で上場来最高の売上・営業利益を計上することが出来ました。売上は前年同期比110%、19億53百万円の増益となり、第1四半期に引き続き、好調な業績をあげることが出来ました。

□日本では、引き続き、自動車関連が伸長しており、電子部品・半導体関連、食品・飲料関連も売上を底上げする形で好調に推移しています。
中国でも、引き続き、自動車関連、電子部品・半導体関連が堅調に推移、新たに取組んでいる高付加価値の戦略製品も伸長しました。
その他の地域では、欧州、シンガポール、インドネシア、フィリピンが好調に推移しました。

□営業利益は、前年同期比167%の14億4百万円となり、リバースエンジニアリング事業拡大に伴う設備投資や研究開発投資等による販管費の増加はあったものの、売上増加による利益増に加えて、工場の稼働アップによる原価率の良化により、大幅増益となりました。

□経常利益は、前年同期比176%の13億98百万円。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年比167.6%の9億21百万円となりました。

□ネット資金は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等により、期首から6億21百万円増加しました。

損益計算書サマリー

(単位:百万円)

	2017年3月期 第2四半期		2018年3月期 第2四半期		前年同期差	前年同期比
売上高	17,846		19,800		1,953	110.9%
営業利益	4.7%	841	7.1%	1,404	563	167.0%
経常利益	4.4%	791	7.1%	1,398	606	176.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3.1%	549	4.7%	921	371	167.6%

□決算数値の概要です。

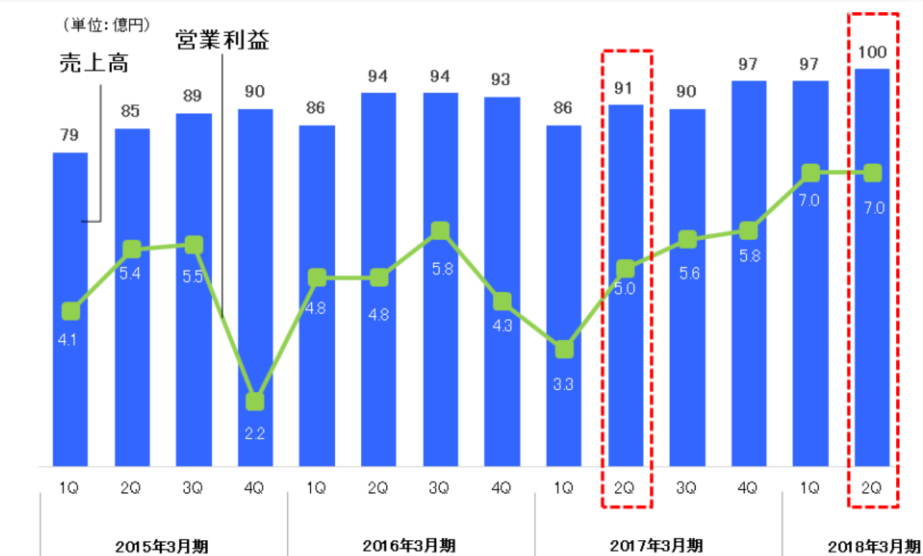
□売上高は198億円で、前年同期比110.9%、19億円の増収となっています。

□営業利益は14億4百万円、経常利益は13億98百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は9億21百万円となり、いずれも前年同期を上回っています。

□また、2017年8月9日に修正公表した、第2四半期累計の業績予想に対しては、売上、利益ともに上回る結果となっております。

売上高と営業利益の推移

四半期ベースの売上高が初の100億円超え、売上・営業利益ともに上場来最高を更新



PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

5

□ 四半期ベースの売上高と営業利益の推移です。

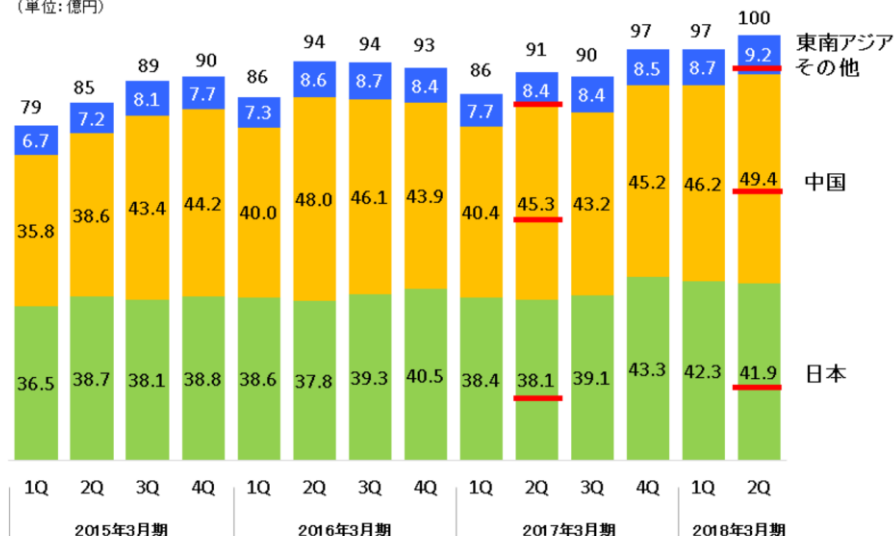
□ 第1四半期に引き続き、売上・営業利益ともに、上場来最高をまた更新することが出来ました。

□ 特に連結売上は、四半期ベースで初めて100億円を超えることが出来ました。

地域別売上高

四半期ベースで、全地域が増収を達成

(単位: 億円)



□地域別の売上高です。

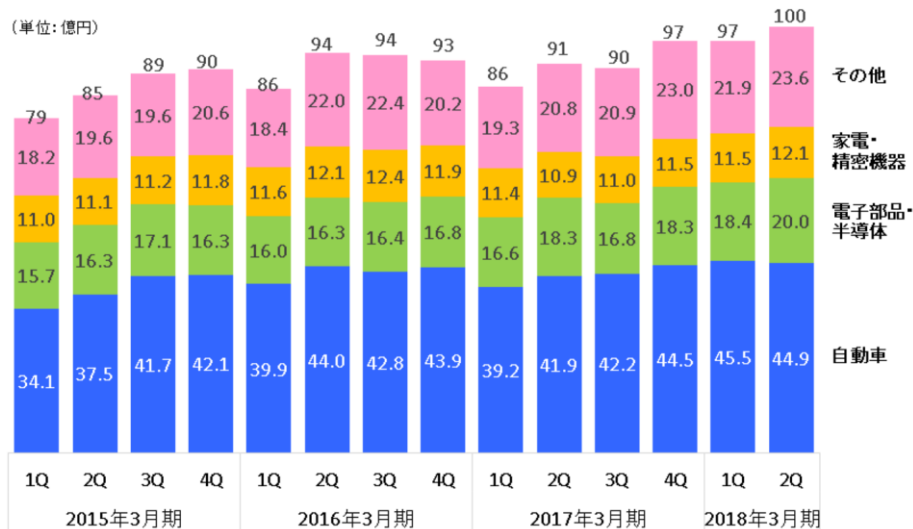
□日本は、第1四半期に引き続き、自動車関連が伸長しており、電子部品・半導体関連、食品・飲料関連も売上を底上げする形で好調に推移し、前年同期を上回る売上となりました。

□中国は、日本同様、引き続き自動車関連と電子部品・半導体が堅調に推移し、新たに取組んでいる高付加価値の戦略製品が伸長したこともあって、前年同期を上回りました。

□東南アジアその他は、欧州、シンガポール、インドネシア、フィリピンが好調に推移した結果、前年同期を上回りました。

業種別売上高

2017年3月期 第4四半期より回復基調に転じた自動車関連の受注が拡大



注) 中国における業種区分修正に伴い、2017年3月期のデータを修正

□業種別売上高のグラフです。

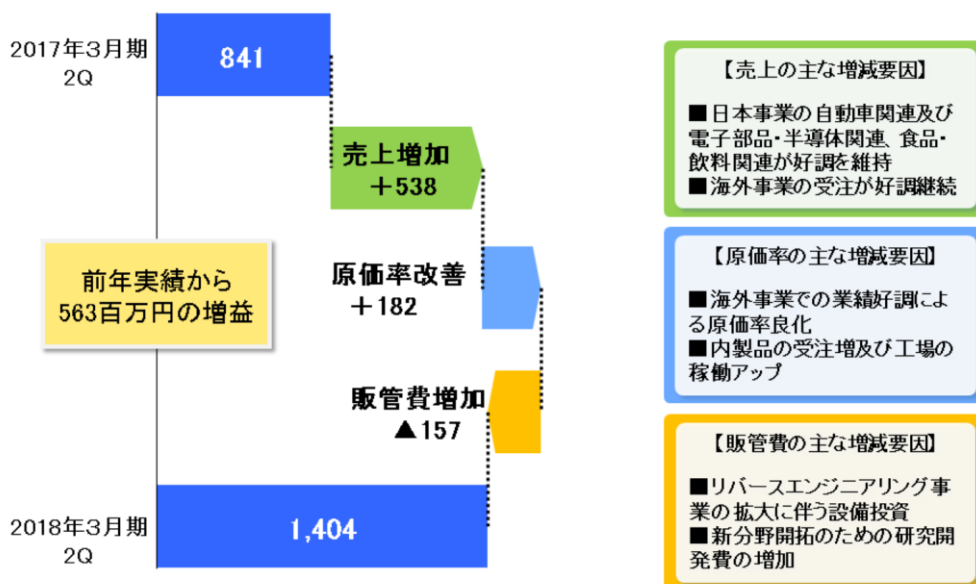
□前年度の第4四半期より、日本において自動車関連の受注が回復基調に転じており、第2四半期にもその流れが続いたことが、自動車関連の売上を底上げしました。

□スマホ向け及び車載向け半導体の好調もあり、電子部品・半導体関連が伸長しています。

□その他の中では、高付加価値製品として当社グループが注力している食品・飲料関連等も好調に推移しています。

営業利益増減

(単位:百万円)



□営業利益の増減グラフです。

□前年実績の8億41百万円から、

売上増加の影響により、5億38百万円の利益増、また工場の稼働アップと海外事業を中心とした原価率良化により、1億82百万円の利益増となりました。

一方、リバースエンジニアリング事業拡大に伴う設備投資や研究開発投資等による販管費の増加による影響があり、1億57百万円の利益減となりました。

□2018年3月期 第2四半期実績としては、14億4百万円となり、前年同期に対し、5億63百万円の増益となっています。

貸借対照表サマリー

(単位:百万円)

	2017年3月期末	2018年3月期 第2四半期末	比較増減
総資産	29,451	30,304	852
総負債	15,275	15,510	235
うち有利子負債	6,857	6,609	▲248
純資産	14,176	14,794	617
ネット資金	▲3,526	▲2,905	621
自己資本比率	48.1%	48.8%	0.7pt

	2017年3月期 第2四半期	2018年3月期 第2四半期	比較増減
設備投資額(無形固定資産含む)	1,159	1,192	33
減価償却費(無形固定資産含む)	676	761	85

□財務状況です。

□総資産は、たな卸資産の増加及び有形固定資産の増加等により、303億4百万円となりました。

□総負債は、支払手形の増加等により、155億10百万円となりました。

□純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加により、147億94百万円となりました。

□自己資本比率につきましては、48.8%となっております。

□設備投資額につきましては、11億92百万円となっております。

2. 2018年3月期 通期業績予想

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

□2018年3月期 通期業績予想です。

2018年3月期 通期業績予想を修正

(単位:百万円)

	2018年3月期 通期連結業績		
	期初予想 (5/11公表)	修正予想 (11/10公表)	修正予想差 (修正予想比)
売上高	38,000	40,600	2,600 (106.8%)
営業利益	5.8% 2,200	6.3% 2,560	360 (116.4%)
経常利益	5.5% 2,100	6.0% 2,440	340 (116.2%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	3.7% 1,400	3.9% 1,580	180 (112.9%)
自己資本利益率(ROE)	9.3%	10.3%	1.0pt

□第2四半期累計期間の業績が、売上、利益ともに2017年8月9日に上方修正した業績予想を上回り、第3四半期以降も引き続き好調が見込まれることから、2017年5月11日に公表した、2018年3月期通期連結業績予想を修正しました。

□日本国内事業においては、前連結会計年度の第4四半期より回復基調に転じていた自動車関連が引き続き好調に推移していることに加え、高付加価値製品として当社グループが注力している食品・飲料関連も売上を底上げする形で、想定以上に好調を維持しています。

□海外事業においては、中国では、引き続き自動車関連と電子部品・半導体関連が堅調に推移し、日本国内事業同様に新たに取組んでいる高付加価値の戦略製品が伸長しています。

□東南アジアその他地域でも堅調な業績となっていること等が、通期業績予想を修正する理由となっています。

2018年3月期 通期業績予想の前年対比及び配当の予想

(単位:百万円)

	2017年3月期 (実績)		2018年3月期 (予想)		前年差	前年比
売上高	36,648		40,600		3,951	110.8%
営業利益	5.4%	1,990	6.3%	2,560	569	128.6%
経常利益	5.1%	1,874	6.0%	2,440	565	130.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3.8%	1,375	3.9%	1,580	204	114.8%
自己資本利益率 (ROE)	9.8%		10.3%		0.5pt	
2018年3月期 配当予想	中間 13.5円 期末 17.5円（株式分割後8.75円）					株式分割を考慮しない場合 ⇒年間31円 配当性向21.5%

□ 上方修正した通期業績予想の前年実績比較です。

□ 売上は前年比+10%の増収、営業利益は前年比+28%の増益を見込んでいます。

□ 業績予想修正に伴い、当期の期末配当予想につきましては、1株につき8円75銭に修正しています。

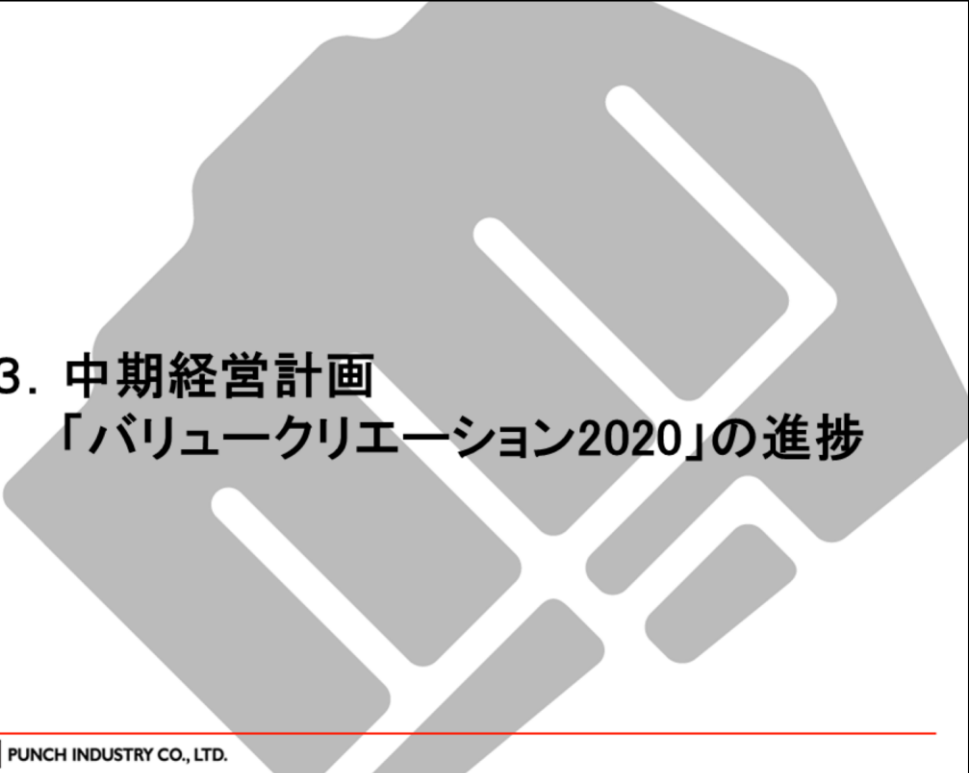
□ 8円75銭は、11月10日に公表いたしました、2018年1月1日を効力発生日とする、普通株式1株につき2株の割合での株式分割を考慮した額となります。

なお、当該株式分割を考慮しない場合の年間の1株当たりの配当金は31円となり、前回予想に対しては4円の引上げ、前期実績に対しては5円の増配となります。

□ 当社は、まだ成長途上にあり、更なる業容拡大のための投資意欲も旺盛であり、そのための原資確保も重要な課題です。

一方、好調な業績を背景に、株主の皆様への還元をより一層充実させたい、との考えもあり、今回の増配を発表しました。

今後も、中期経営計画「バリュークリエーション2020」を推進し、増益・増配基調を堅持しつつ、盤石な財務基盤と高ROEの両立を目指します。



3. 中期経営計画 「バリュークリエーション2020」の進捗

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

□中期経営計画「バリュークリエーション2020」の進捗です。

国内工場の状況



日本: 北上工場 食品・飲料関連の新設備

■食品・飲料関連の 専用ライン設置

■食品・飲料関連の売上 ・日本 前年同期比

171%

・連結 前年同期比

143%

□日本・中国・ベトナムの各工場の現状について説明します。最初は日本です。

□当社グループでは、新分野開拓の一環として、業種別売上の「その他」に組み込まれている食品・飲料関連の受注増に取り組んでいます。

□食品・飲料関連の売上は第2四半期累計で連結ベースは前年同期比143%と好調に推移しており、日本でも前年同期比171%と大きく伸長しています。

□日本では主にペットボトル容器の市場拡大などが増加要因となって、売上が伸長しています。ペットボトル市場拡大の背景には、ワインなど今まで異なる容器だった物のペットボトル化が進んでいる例もあり、成長余地は十分にあると考えています。また輸送コストを考えれば、生産地自体が国外に逃げず、現地生産(国内生産)が維持される点も非常に魅力的です。

□市場拡大に伴って、お客様サイドの、容器製造ニーズ増に対する対応の多様化への要望と、当社の供給提案がうまくマッチした、という状況ですので、このwin-win関係を更に強化します。

ペットボトルなどは大量製造のため、安定供給へのニーズは極めて高いことや、加えて、要求される規模で供給出来るメーカーも限定的であることもあり、受注は安定した伸びが期待されます。当社では、この食品・飲料関連の強化のために新規設備も導入し、生産能力の底上げに積極的に取り組んでいきます。

中国工場の状況



中国:大連工場 増床工事中

【工場増設の狙い】

■戦略製品のライン新設

■研究開発スペースの拡張

■将来のさらなる設備増強に向けたスペースの確保

□中国工場の状況です。

□中期経営計画「バリュークリエーション2020」の施策の一つである「高収益事業の推進とR&D強化」において、グループ生産体制の最適化に加えて、景気変動を受けにくく、将来の拡大が見込まれる業種との取引拡大等を考えており、とりわけ中国における特注品生産能力の向上が喫緊の課題となっています。

□課題解決に向けた一つの手段として、大連工場は増設工事の最中であり、来春からの稼働を目指しています。

□大連工場では、戦略製品のライン新設、研究開発スペースの拡張、そして将来のさらなる設備増強に向けたスペースの確保を行い、世界最大の金型市場である中国におけるトップポジションの維持及び更なる成長の為、特注品生産の強化と生産能力の拡大という質・量の両面から対応します。

□中国でのビジネスは現地通貨ベースでは、しっかりと成長させ、グループ生産体制の最適化、特注品受注強化に向けた「高収益事業の推進とR&D強化」を推進していくことで、グループ連結業績への貢献も高めていきます。

ベトナム工場の状況



■加工作業、iPadで図面管理
⇒習熟度向上中

■カタログ品の生産開始
⇒2019年を予定
※2018年に投資



⇒プレス用金型部品の生産
※日本向けに出荷

□ベトナム工場の状況です。

□ベトナム工場の立ち上げを起点として、

- グループ生産体制の最適化
- 特注品生産ドライブ

を行うことで、収益力を強化することに取り組んでおり、当該工場は重点施策である「高収益事業の推進とR&D強化」に関して、大きなキープポイントとなります。

□パンチグループとしての狙いは、「コスト低減」と「リスク分散」、そして「特注品シフトによる高付加価値化」により、総合的な高収益力を実現することにあります。

□稼働当初は、加工作業などの習熟度の向上に時間を要しましたが、目標に向けて着実に進めています。現在は最終加工をする前段階の半製品であるブランク材を日本向けに出荷する段階にあり、完成品であるカタログ品を日本向けに供給する段階への移行期です。

現時点では、日本向けにカタログ品の供給を開始する時期は、2019年を予定しており、2018年中に投資を実施する予定です。

□カタログ品の供給を開始することでベトナム工場の黒字化、日本で販売しているカタログ品の収益性改善など大きな貢献をすると見込んでおり、予定されている次のステップに向け、全スタッフがー丸となって頑張っています。

グローバル生産体制の再編

【課題】カタログ品の粗利改善



【重点】食品・飲料、医療機器関連



バリュークリエーション2020期間の設備投資(計画)
2017年3月期～2021年3月期

140億円

■コスト力勝負

⇒ベトナムシフト(カタログ品)

■技術力勝負

⇒日本+中国(特注品)

□工場への投資をメインとして、中期経営計画「バリュークリエーション2020」の5年間の投資総額は、140億円を予定しています。

□特に注力していく分野としましては、既に、いくつかの芽が育ちつつある、食品・飲料関連、これまでもじっくりと取り組んでいる医療機器関連、そして10年後も見据えた、新分野への投資を計画しています。

□様々な投資効果として狙うのは、「グローバル生産体制の最適化」であり、

- コスト力勝負が必要なカタログ品はベトナム工場で生産
- 技術力勝負が必要な特注品は、日本と中国において生産を強化

という内容であり、当社グループの売上と利益を更に一段の高みへと上げる取組みになります。

リバースエンジニアリングへの取り組み



【お客様の課題解決】

■ 既存のお客様との
お取引の幅の拡大

■ 異業種＋多業種の
お客様から引き合い

■ 着実に認知度が向上
メディアでの紹介や、
積極的なPR活動を展開



□ 中期経営計画「バリュークリエーション2020」の重点施策である「お客様サービスの向上」では、リバースエンジニアリングの注目度が高くなりつつあります。

□ リバースエンジニアリングとは、「図面がなくても現物から3Dデータ化して復元する技術」であり、当初は企業再編等で図面を消失してしまったが金型用部品の現物は残っているので、現物を元にして金型用部品を再現して欲しいというお客様からのご要望が多く、又、現場での効率改善の為、金型部品自体に手を加え、結果的に元の図面とは違ってしまい、これを再現して欲しい、というような声があったため、専任部署を新設してスタートした事業でした。

□ 順調に、既にお取引のあるお客様からのご注文も増える一方で、想定外の引合いも受けています。

□ 先般、大手新聞社でも当社の記事が掲載されましたが、歴史的建造物のレリーフや装飾金物などの「文化財」を3Dデータ化して図面起こしのうえで再現して欲しいというご要望も出ており、これまでお取引の無かった異業種・多業種のお客様から引き合いをいただいております。着実に認知度が向上していると手応えを感じています。

□ まだまだ規模感を語るようなビジネスではありませんが、今後の思わぬ新市場開拓にも繋がる大きな可能性も有しており、世界展開も視野に入れながら、じっくりと取り組んでいきたいと考えています。

働き方改革の推進



■売り方改革

- ・SFA(営業支援システム)導入

■働き方改革

- ・「会議生産性向上マニュアル」制定
- ・「ノー残業デー」の実施

■人材育成

- ・「パンチアカデミー」での技能教育

■企業風土改革

- ・社員主体の風土改革活動
- ・サークル活動の推進

□投資するのは工場や設備というハード面だけではありません。

□作り方・売り方・管理の仕方も含めた働き方の改革に加え、人材育成・企業風土など様々な改革にも着手しており、一例ですが、

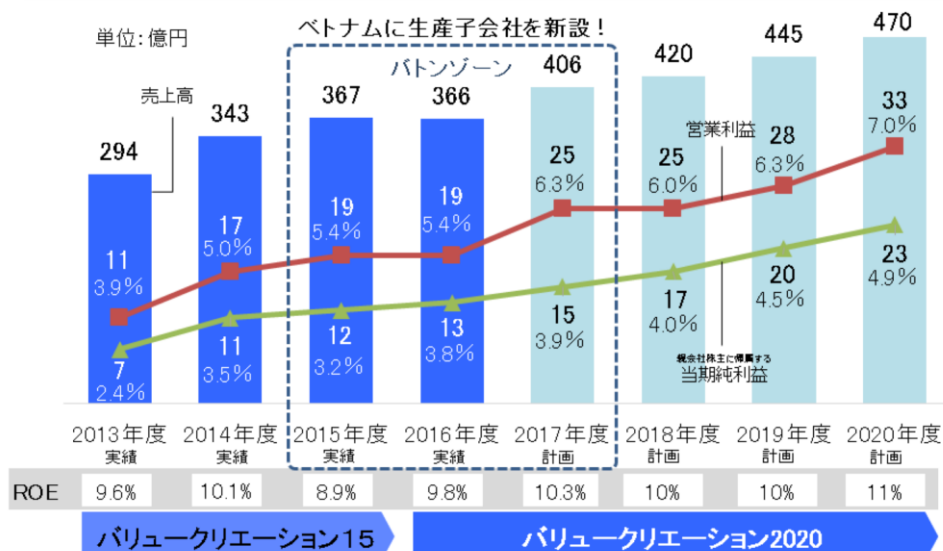
- 営業支援システムの導入
 - 会議の生産性を高めるためにマニュアルを作成し、社員へ意識づけ
 - ベテランから若手社員への技能継承 等
- と、さまざまなことに取り組んでいます。

□第2四半期の業績が当初計画を上回って非常に良かったこともあり、通期業績を上方修正しました。

□利益にはこだわっていきますが、社内の様々な改革にも投資し、従業員への還元もはかっていきたいと考えており、必要なコストも見込んだうえで、業績予想に織り込んでいます。

経営目標 売上・利益の推移

2020年度 売上高470億円以上 営業利益33億円以上 当期純利益23億円以上



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright © 2013-2013 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

20

□2020年度の経営目標 売上・利益の推移です。

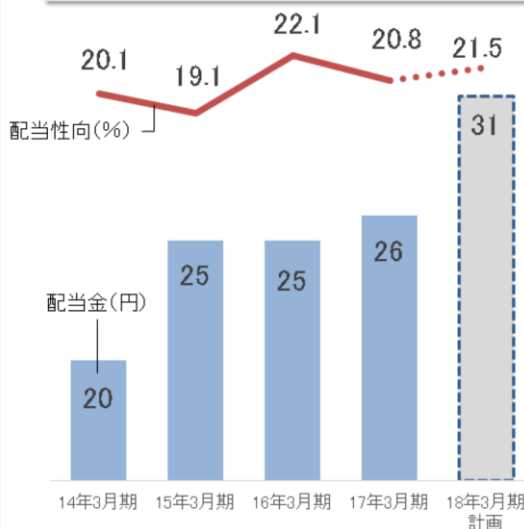
□2018年3月期の通期業績予想は、各地域の事業が好調に推移したこともあり、営業利益・純利益ともに上場来最高益を更新する見込みです。

□2020年度(2021年3月期)の、売上目標は470億円以上、営業利益目標は33億円以上、当期純利益目標は23億円以上、は変更してありませんが、営業利益は1年前倒しでの達成が見込まれており、更なる業績向上を目指し、中期経営計画「バリュークリエーション2020」の2年目である現在、パンチグループ一丸となって各施策に取り組んでいます。

1株当たり配当金と配当性向

【配当方針】

安定かつ継続的な配当に加え、業績連動により連結配当性向20%以上を目安としており、増配基調を維持しつつ、段階的に引き上げることが目標



継続的企業価値向上の基盤は、株主の皆さまからの「信頼」と「応援」であり、「期待」にお応えすることが経営の重要課題。

2018年3月期の配当

中間13.5円

期末17.5円(株式分割後8.75円)

⇒2018年1月1日付の株式分割を考慮しない場合、31円予定(昨年より5円増配)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2013-2013 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

21

□株主還元への考え方についてです。

□パンチグループは、上場を期に、「世界のパンチ」を目指して新たなスタート切った会社であり、更なる成長に向け、R&D投資、IT投資等も含めた戦略投資も必要です。

□一方で、中期経営計画「バリュークリエーション2020」で掲げた重点経営課題に取組み、持続的に成長していく中で、内部留保とのバランスもとりながら、株主様への還元にも取り組んでいきます。

□現状の配当方針は、安定かつ継続的な配当に加え、業績連動により連結配当性向20%以上を目安としており、増配基調を維持しつつ、段階的に引き上げること为目标としています。

パンチグループの根幹を支えているのは「人」と「技術」

「職業能力開発関係優良事業所 厚生労働大臣表彰」を北上工場が受賞



 PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

22

□パンチグループの根幹を支えているのは「人」と「技術」です。

□2017年11月15日に「職業能力開発関係厚生労働大臣表彰」を受賞しました。
職業能力開発の推進を図るため、認定職業訓練の推進や技能検定の実施に多大な貢献があった人や事業所などを対象としており、技能検定に関し永年にわたって多大な貢献があり、他の模範となる事業所として表彰されました。

□技術力をベースに、「一気通貫の生産体制」「お客様密着型の営業体制」で、カタログ品と特注品をいずれも幅広く取扱い、お客様の多様なニーズにきめ細かく対応し、お客様に高い満足度を提供できるというパンチグループの最大の強みを磨き、「人」と「技術」をベースに、引き続き、株主の皆様、投資家の皆様からの「信頼」と「応援」をいただき、「期待」にお応え出来るよう、ベストを尽くします。

■各資料につきましては、弊社Webサイトよりご覧ください。

◆決算短信

<http://www.punch.co.jp/ir/library/tanshin.html>

◆決算説明資料

<http://www.punch.co.jp/ir/library/setsume.html>

◆IRニュース一覧

<http://www.punch.co.jp/ir/2017/>

参考資料



会社概要

会社名	パンチ工業株式会社
本社所在地	東京都品川区南大井6丁目22番7号
設立	1975年3月
資本金	28億9,773万円
従業員数	3,959名(グループ連結、2017年3月末現在)
生産拠点	北上工場(岩手県北上市) 宮古工場(岩手県宮古市) 兵庫工場(兵庫県加西市)
グループ会社	株式会社ピンテック(山形市) 盤起工業(大連)有限公司(中国) 盤起工業(瓦房店)有限公司(中国) 盤起工業(無錫)有限公司(中国) 盤起工業(東莞)有限公司(中国) 盤起弹簧(大連)有限公司(中国) PUNCH INDUSTRY INDIA PVT. LTD.(インド) PUNCH INDUSTRY MALAYSIA SDN. BHD.(マレーシア・ペナン) PUNCH INDUSTRY SINGAPORE PTE. LTD.(シンガポール) PUNCH INDUSTRY VIETNAM CO. LTD.(ベトナム) PUNCH INDUSTRY MANUFACTURING VIETNAM CO. LTD.(ベトナム) PT. PUNCH INDUSTRY INDONESIA(インドネシア) PUNCH INDUSTRY USA INC.(米国)

※PANTHER PRECISION TOOLS (KL) SDN. BHD. は、PUNCH INDUSTRY MALAYSIA SDN. BHD. に事業を移管し、2016年9月27日付けで清算を結了しております。

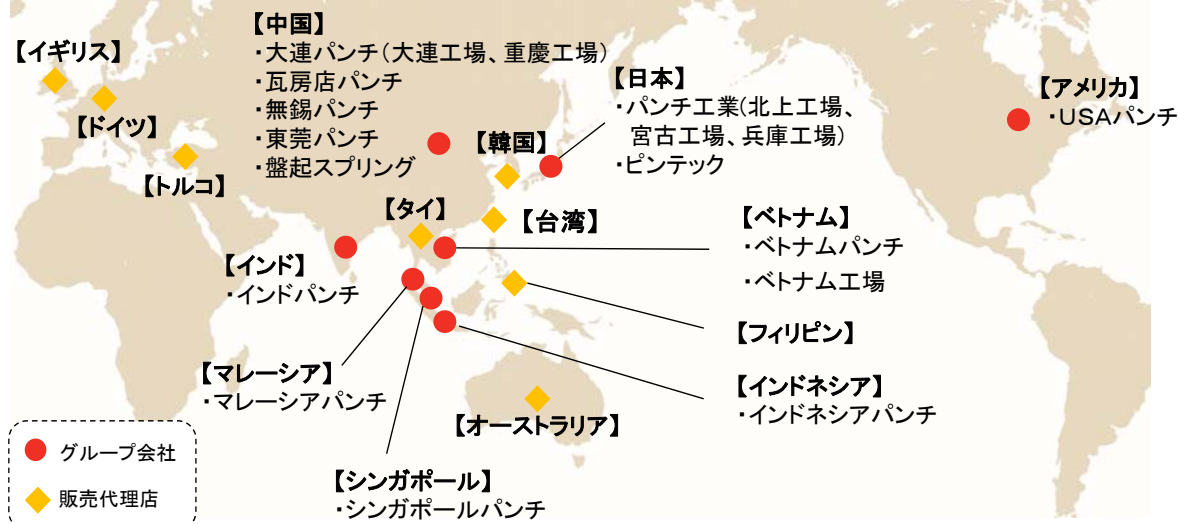
パンチグループのネットワーク

生産拠点数

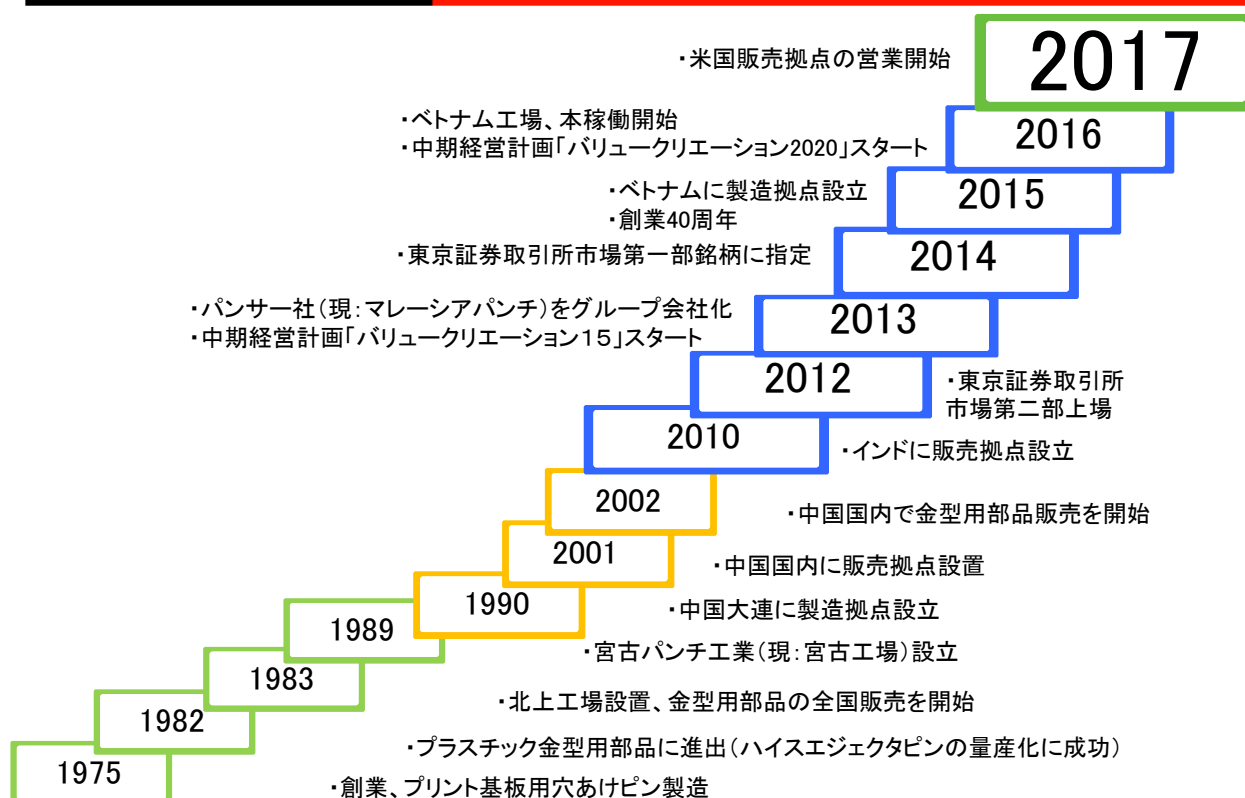
日本	海外
4 カ所	8 カ所

販売拠点数

日本	海外
13 カ所	40 カ所

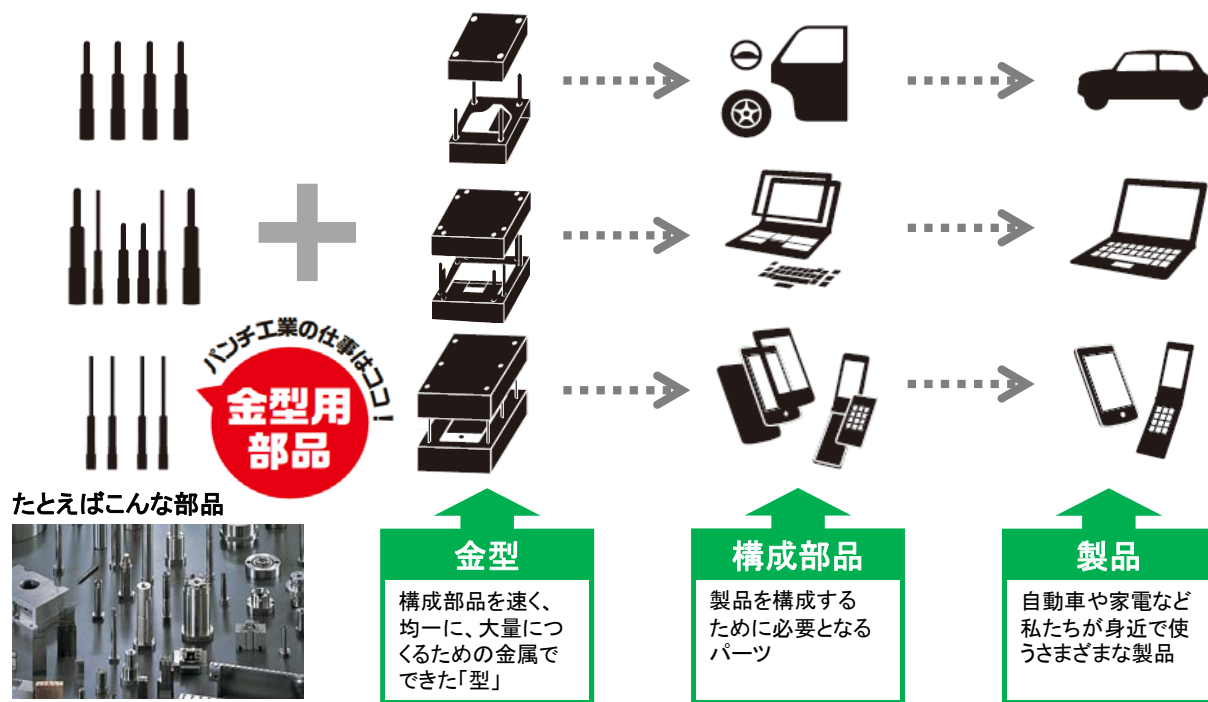


沿革



事業内容

金型を構成するために、なくてはならない多種多様な精密部品の製造・販売

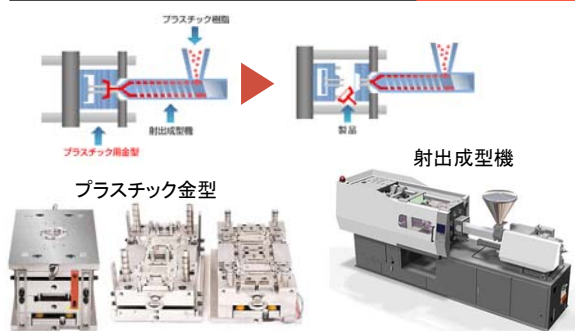


PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

27

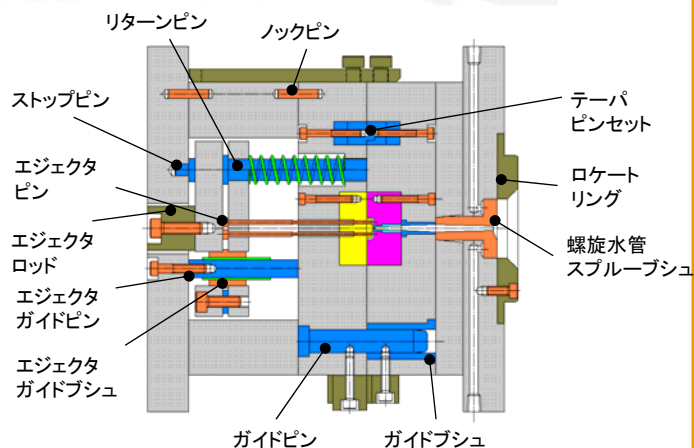
プラスチック金型と金型用部品



エジェクタピン



スプルーブシュ・ロケットリング



●プラスチック金型用部品について

プラスチック金型とは、携帯電話やデジタルカメラの外装など、多くのプラスチック製品の製造に用いられる金型であり、加熱溶融したプラスチック樹脂を、射出成型機に実装された金型に注入し、冷却、固化することにより製品が作られています。

当社グループでは、広範なプラスチック製品の射出成型用金型に組み込まれるエジェクタピン、スプルーブシュ等のプラスチック金型用部品の製造・販売を行っております。

エジェクタピン... 成型品を金型から離し、突き出すための部品

スプルーブシュ... 射出成型機の射出ノズルから溶融したプラスチックを金型へ流し込むための部品

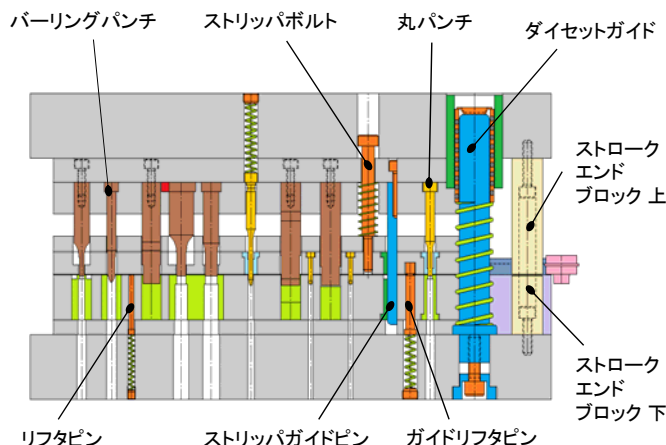


PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

28

プレス金型と金型用部品



●プレス金型用部品について

プレス金型は、プレス機(上下運動する機械)に金型を装着し、上下に分かれた金型の間に材料(金属の鋼板)を入れ、プレス機を稼働することにより、金型で型どられた製品が出来上がります。

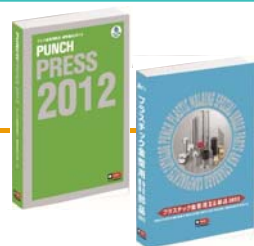
当社グループでは、自動車、家電、精密機器などを大量生産するために必要な、プレス加工で使用する金属の鋼板を打ち抜く際に使用するパンチ・ダイ部品、金型の上下の動きを保持するガイド部品等のプレス金型用部品の製造・販売を行っております。

パンチ……………パンチは材料に推しつけて使われる工具で、通常はダイと対で使われ、材料に穴をあけたり、形状を転写する部品

ダイセットガイド…上型と下型の関係を正しく保つために使用する部品

パンチグループの強み

お客様に高い満足度を提供



カタログ品

汎用性の高い標準製品を豊富にラインナップ

スピーディなソリューション

特注品

カスタムニーズにも柔軟に対応



一気通貫の生産体制
1,800台の設備で幅広い対応力

お客様密着型の営業体制
きめ細かな対応・提案力

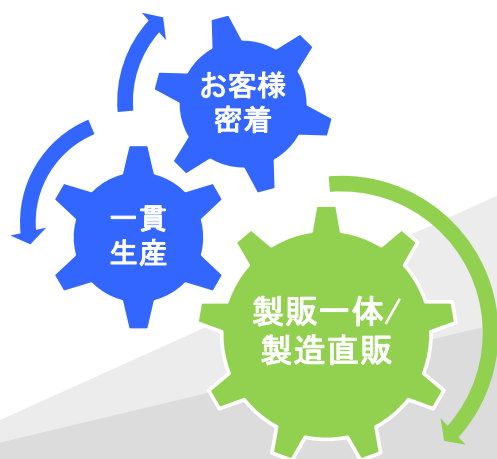
高い技術力
創業以来培ったノウハウとたゆまぬ研究開発

CSR経営と企業ビジョン

CSR経営

世界のものづくりを支える企業であり続けるために
CSR経営を実行しています。

企業ビジョン



世界のパンチへ

金型部品業界での
トップブランドを確立し
製販一体企業としての
優位性を活かした
高収益企業を目指す

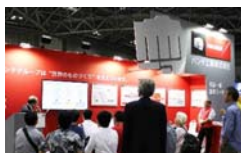
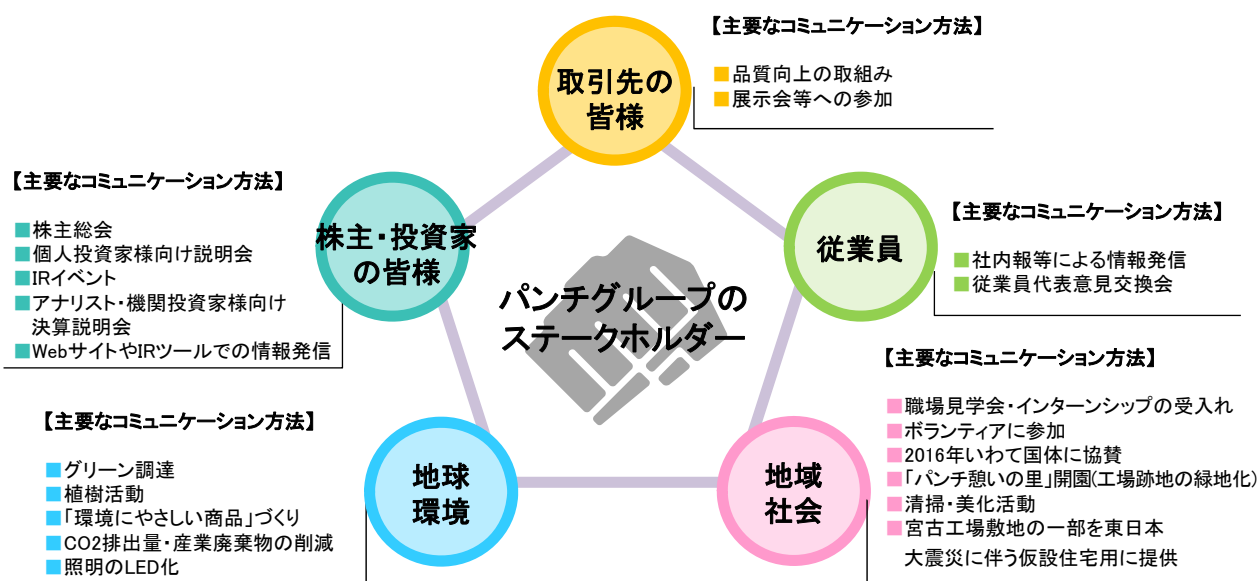


PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

31

ステークホルダーとのコミュニケーション



IRイベント出展



「パンチ憩いの里」開園
(工場跡地の緑地化)



職場見学会



ボランティア活動
(2016年いわて国体)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

32

本日は、誠にありがとうございました。



【IRに関するお問い合わせ先】 パンチ工業株式会社 経営戦略室 広報課 電話:03-5753-3130 e-mail: info-corp@punch.co.jp

【将来見通し等に関する注意事項】

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。